

ITの旗手たち

北海道を元気にする
発想と技術

第5回

2007年度、道内IT企業の売上高は4000億円を突破。食品、鉄鋼、石油・石炭製品、パルプ・紙加工品に次ぐ第5の産業に成長した。1兆円産業にするためには何が必要なのか。全国地域情報産業団体連合会会長を務める中村真規氏に聞く。

トウモロコシ業、次いで情報処理・提供サービス業が19・7%、以下、システムハウス業が4・4%、インターネット付随サービス業が1・3%、その他が25・7%とされています。正直、どういう区分がよくわかりません。

道内技術者の強みを生かし 1兆円産業を目指す

情報産業の根底
はシステム開発

北海道IT推進協会は、2007年度の道内IT関連企業の総売上高が初めて4000億円を突破、4152億円に成長したと発表しました。

中村 ITという言葉があまりにも幅広くなりすぎて、本当

は1度整理しないといけないでしょうね。ひと口にITといっても、システム開発もあればコンテンツ業もある。さらにはデータセンターやコールセンターなども全部ひっくるめてITです。

確かに同協会の調査でも総売上の49%はソフ

トウモロコシ業、次いで情報処理・提供サービス業が19・7%、以下、システムハウス業が4・4%、インターネット付随サービス業が1・3%、その他が25・7%とされています。正直、どういう区分がよくわかりません。

札幌市は以前からIT関連産業を16年度までに1兆円規模にしたいと言っています。

中村 私も1兆円を目指すべきだと思いますが、その比率でいえば7000億円から8000億円はシステム開発の部分が担わないといけない。その部分の底上げがないと、なかなか1



全国地域情報産業団体連合会会長
デジック代表取締役

中村真規氏

Nakamura Masaki

(なかむら・まさき) 1947年10月2日、小樽市出身。73年青山学院大学卒業後「パロース」(現日本ユニシス)入社。87年「デジック」設立。同年北海道コンピュータ関連産業健康保険組合理事長。2000年北海道IT推進協会初代会長。05年北海道情報システム産業協会設立、会長就任。06年全国地域情報産業団体連合会会長。

兆円には届かないでしょうね。それを道内の市場だけで増やせるのかというと無理です。いろ

需にならざるを得ない。現状も道外からの受注業務のほうが多いですね。中村 当社も8割方は東京の

んな説があつて難しいんですが、現在道内にソフトウエア会社は5、600社はあるといわれています。行政のスタンスとしては、ITを使って北海道観光をより活性化させようとか、ITを使って農商連携をしようとか、「内需」で拡大させようとする方向性が強いように思います。もちろんそれは大きな役割ですが、それだけで4000億円を8000億円にはできない。まして1兆円にするならやはり「外

仕事です。どこをもって東京の仕事と見るかは、これもちょっと難しいんですが、たとえば東京の大手コンピュータ会社の北海道法人から仕事を受けると、確かに北海道の会社から受注しています。その北海道法人はどこから仕事を受けているのか。実は東京の一部上場企業からの仕事で、その一部をわれわれが受けるとなると、それは東京の仕事とみなしたほうが妥当です。そういうものを含めると道外からの仕事は全体の7割から8割を占めると思います。

外需の売り上げは2100億円から2400億円。中村 そうだと思えます。もっと道外から北海道に

仕事を持つてくるには。中村 まさに北海道の情報産業の売りは何なのかということが問われます。中国やインドの優秀といわれている技術者と比べて北海道はどうなのか。ここはきちんと整理しておく必要がある。私はたくさん売りはある